

■ 東京都市大学横浜キャンパス



東京都市大学横浜キャンパス(横浜市都筑区)は1997年に開設され、現在2200人の学生が学ぶ。約6・5分の広大な敷地は、港北ニュータウンで進む「オープンスペース計画・グリーンマトリックスシステム」に準拠している。このシステムは公園や校庭などのオープンスペースと緑を歩行者専用道路や緑道で結びつけ、限られた空間で最大限の活動を行うことができる仕組み。これによ

り、キャンパス内を囲う塀は一切ないが、強固なセキュリティシステムが必要になる。

しかし、同大学管理グループ管理課キャンパス事務センターの佐々木暢俊課長は「横浜キャンパスの防犯・防災対策は日本の大学でもトップクラス」と胸を張る。文部科学省が審査する「サイバーキャンパス整備事業」に選定され、キャンパス内に情報ネットワークシステムを構築したためだ。情報ネットワークシステムは防犯・防災対策にそのまま活用。キャンパス内の人の動きをすべて把握できる

▲……………
 キャンパス情報ネットワークシステムの根幹設備が置かれている「情報メディアセンタ

情報通信システム構築で防災対策

ほどのレベルにまで精度を高め、学生の安全・安心を担っている。今では国内だけでなく中国、韓国、ドイツなど海外の大学からもキャンパスに視察団が訪れ、「世界的にも注目されるキャンパスになりつつある証」(佐々木課長と話す)。

このほか、学生による防犯・防災対策の新システム開発が進んでいる。環境情報学部情報メディア学科の横井利彰教授の研究室の4年生が、卒業論文のテーマに「避難シミュレータの開発」を選んだ。夜間を想定したシーンや火災による煙により視界が悪いシーンなどさまざまな設定ができるため、現実の避難訓練の不足部分を補うことが期待されている。完成した際には地元の都筑消防署と連携し、キャンパス内で運用していく予定だ。